

コロナ禍の昨今、一人でいることが増えました。不要不急の外出を避けていると、人と接する時間が減りました。そのときふと寂しい気持ちになることがあります。そんなときふと金子みすゞさんの詩の一説を思い出しました。

私がさびしいときに、よその人は知らないの

私がさびしいときに、お友だちは笑うの

私がさびしいときに、お母さんはやさしいの

私がさびしいときに、仏さまはさびしいの

私が寂しい時の私と他者との関わり方が書かれています。まったくの他人は私の気持ちを分かってくれません。友達は私の気持ちを察してくれて

明るく振舞ってくれるのですが、本当のところはなかなか通じません。母親は、そんな私をじっと見つめて一方的に励ますことはしないでやさしく接してくれます。しかし、本当の意味で寂しさを共有、丸ごと受け入れてくれるのが仏さまなのです。私がさびしい時にがんばれと励ますのではなく、心に寄り添うように「さびしいね」と私の寂しさを我が事のように感じてくれるのが仏さまなのです。

私が寂しいと仏さまも寂しい、私が寂しい時、仏さまも一緒にその寂しさを背負ってくださる、そういう仏さまのお心が聞こえた時、私の心は安らぎ癒されるのではないでしうか。

コロナ禍で大変な昨今ではありますが、自分は独りではなく私の苦しみを共に苦しむ、私の喜びを共に喜んでくれる仏さまとの人生を一緒に歩んで参りましょう。